



2024年度よりVIEW next編集部配属となりました伊藤です。今号では長崎県立諫早高校を取材させていただきました。見学した後田康蔵先生の物理の授業では、どの生徒も生き生きと学習に取り組んでいました。なぜ生徒はこんなに生き生きとした表情をしているのだろうと考えながら様子を見ていたところ、「そういうことか。分かった！ありがとうございます」という発言を耳にしました。また、休み時間には、2・3年生の生徒に反転学習や自由進度学習について話を聞きました。その中で印象的だったのは、「教室はどんな時間を過ごす場所か」と尋ねた際に、生徒が「他者と会話をして自分の考えを深める場」と答えましたこと。ICTの活用により、遠隔での学習ができるようになってきましたが、学びの場を保障するものとして、学校の教室は大きな役割を担っていることを改めて認識しました。(伊藤)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

## 「見えない力」を育む授業の工夫を考えた

8月号の特集の岡山大学の中山芳一准教授の記事にあった、「見えない力」は客観的に測ることが難しいので、教師は「見えない力」を具体的な行動指標として言語化する必要がある、という指摘はまさにその通りであり、現場に役立つ情報だった。また、Case 1の群馬県教育委員会の記事では、生徒に「自ら考え、判断し、行動できる」力を育むために、県全体で「エージェンシー」を浸透させていく取り組みが参考になった。特に、実践例の群馬県立高崎女子高校と同前橋南高校の記事には、生徒の自立を組織的に支援するプロセスが具体的に紹介されており、自校の教育活動に応用できそうだった。私は今、授業を通して「見えない力」を育む場を意図的に増やそうと考えている。例えば、授業の最後に本時の学習内容の振り返りを書く活動などだ。生徒が振り返りを言語化する過程で、教師が具体的にフィードバックを行うことで、生徒が自分の成長を実感し、次の学びにつながるよう、支援していきたい。

静岡県立浜名高校定時制課程 萩 一樹

## 今後は生徒会や委員会の活動を生徒主体で運営

8月号の特集のCase 1の実践例・群馬県立高崎女子高校の記事を読み、自校では以前、生徒会や委員会の活動を生徒が主体的に運営していたことを思い出した。今は、活動を効率よく進めるために教師主導で行うことが多く、生徒が主体性を発揮する場面を奪ってしまっていたのだと気づいた。生徒会や委員会の活動をなぜ行うのか、原点に立ち戻り、時間がかかってしまうかもしれないが、様々な活動を生徒主体で進められるようにしたいと思った。

三重県 匿名希望

## 生徒だけでなく、教師の主体性を引き出す上でも有効な手法

8月号の特集のパーソル総合研究所の小林祐児 席主任研究員の記事が大変勉強になった。特に、企業が社員に「見えない力」を育成するためにしているという2つの手法は、学校でも応用して実践できるもので、学校が生徒の主体性を引き出すきっかけをつくることができると再認識した。それらの手法は生徒だけでなく、教師の「見えない力」を育む上でも有効であると感じた。

静岡県立吉原工業高校 松山 陸

## 生徒の思いを踏まえた学校づくりに共感

8月号の「指導変革の軌跡」の大阪府・私立常翔学園中学校・高校の記事を読み、同校が、生徒が学校づくりに参画する機会を積極的に設けていることに共感した。本校でも学校行事などの見直しを行っているが、教師が決めたことを生徒に伝えるだけで、生徒が見直しの過程にかかわることはほとんどない。そこで職員会議で、教育活動の改善には当事者である生徒の意見を聞くことが重要だと主張した。生徒の意見を聞くことになると、学校に対する批判的な意見を耳にするかもしれない。しかし、生徒の意見を踏まえて教育活動を改善していかなければ、教師の思いと生徒の思いがずれていくだけで、生徒が学校生活に充実感や満足感を抱く部分が少なくなってしまう可能性がある。生徒が学校づくりの様々な場面に参画することの重要性を、校内の先生方に発信し続けていきたい。

香川県 匿名希望